

| | |
|-------------|---------------|
| 講義コード | 1116320000 |
| 講義名称 | 政治学A <春> |
| 科目英文名 | Politics A |
| 開講責任部署 | 共通教育機構 |
| 代表ナンバリングコード | POLS1000 |
| 単位数 | 2.0 |
| 時間割 | 春学期: 木曜日 4 時限 |
| 講義開講時期 | 春学期 |

担当教員

| |
|-------|
| 氏名 |
| 塚田 鉄也 |

| | | |
|------|----|------------|
| 授業形態 | 講義 | アクティブラーニング |
|------|----|------------|

| | | |
|---------------|--|----------------------|
| アクティブラーニングの詳細 | ※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト | 宿題(演習問題、e-learning等) |
|---------------|--|----------------------|

| | |
|----------|--|
| 講義・演習概要 | 世の中には、さまざまな考え方や価値観、利害を持った人がいます。そして、そうした異なる価値観や利害が併存するなかで、共通の問題に対処したり集団としての方針を決めようとするときに必要になるのが政治です。本講義では、特に異なる価値観や利害の併存という点に注目して、政治の基本的な概念を学びながら、国内政治や国際政治において具体的にどのような問題が争点になっているのかを考察していきます。 |
| 学習（到達）目標 | ①政治の基本的な概念や対立軸について理解し、説明できる ②そうした理解に基づいて現実の政治を理解し、説明できる |

講義・演習計画

| 回 | 内容 |
|------|-------------------|
| 第1回 | 政治学を学ぶ意義 |
| 第2回 | 政治とは何か |
| 第3回 | 権力論 |
| 第4回 | 自由論 |
| 第5回 | 平等論 |
| 第6回 | デモクラシー |
| 第7回 | ポピュリズム |
| 第8回 | ネーションとナショナリズム |
| 第9回 | フェミニズム |
| 第10回 | 環境と政治 |
| 第11回 | 国際政治①：対立と協調 |
| 第12回 | 国際政治②：主権と人権 |
| 第13回 | 国際政治③：文化とアイデンティティ |
| 第14回 | 国際政治④：貧困と開発 |
| 第15回 | まとめ |

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

| | |
|------|------|
| 試験 | 100% |
| レポート | 0% |
| その他 | 0% |

| | |
|---------------|--|
| 成績評価の方法（コメント） | 2週に1度、計7回実施する確認テスト（WebClassの「テスト」を利用）の平均点により評価する。なお、盗用等の不正行為が確認された場合は、その段階で不合格とする。 |
|---------------|--|

テキスト

| | 著者 | タイトル | 教科書購入区分 | ISBN | 出版社 | 備考 |
|----|----------|---------------|---------|---------------|-----|----|
| 1. | 川崎修・杉田敦編 | 現代政治理論（新版補訂版） | 学生独自購入 | 9784641177314 | 有斐閣 | |

| | |
|--------------|-----------------------------------|
| 参考文献 | 村田晃嗣ほか『国際政治学をつかむ（第3版）』（有斐閣、2023年） |
| 事前および事後学習の指示 | テキストの指示された部分を事前に読んでおいてください。 |
| 学習時間 | 事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間 |

| | |
|-------------|--|
| 講義コード | 1482540000 |
| 講義名称 | 経済学特講-行動公共政策入門 <春> |
| 科目英文名 | Topics in Economics-Behavioral Economics and Public Policy |
| 開講責任部署 | 経済学部 経済学科 |
| 代表ナンバリングコード | ECON2400 |
| 単位数 | 2.0 |
| 時間割 | 春学期: 木曜日 4 時限 |
| 講義開講時期 | 春学期 |

担当教員

| |
|-------|
| 氏名 |
| 米田 紘康 |

| | |
|------|----|
| 授業形態 | 講義 |
|------|----|

| | | |
|---------------|---|------------|
| アクティブラーニングの詳細 | ※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート | 小レポート/小テスト |
|---------------|---|------------|

| | |
|----------|--|
| 講義・演習概要 | <p>この講義では行動経済学や認知科学などがどのように政策に活用されているのかを学習します。人間は常に些細なことから重要なことまで意思決定（判断）の連続に晒（さら）されています。しかも私たちはコンピューターのように賢くもなくまた意志が弱いので、いつも正しい意思決定をしているとは限りません。</p> <p>だからと言ってずっと悩み続けることはありませんし、いつも間違っているわけではありません。行動・意思決定にはクセやパターンがあるということです。このクセ・パターンを研究する分野が行動経済学です。本講義では、人間のクセや行動パターンを逆に利用して、行動を変容させて仕事、健康、公共政策に活かした事例や方法を学びます。</p> |
| 学習（到達）目標 | <p>主目標：受講生が、ミクロ経済学や行動経済学を中心とする基本的な意思決定について理解する。 副目標：受講生が行動経済学や認知科学の知識を生かして、新たな問題や政策を考えることができる。</p> <p>受講生は以下の3能力を身につけることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複雑に絡みあった経済・社会事象の仕組みを理解し、問題点を発見できる能力（理解力） ・客観的な分析を基礎にして経済・社会事象を論理的に考察できる能力（展開力） ・自らが体得した知見を自分の言葉で外部に対して発信できる能力（発信力） |

講義・演習計画

| 回 | 内容 |
|------|-------------------|
| 第1回 | はじめに |
| 第2回 | 公共政策に行動経済学を導入する目的 |
| 第3回 | 行動経済学のための経済学 |
| 第4回 | 行動経済学の基礎知識(1) |
| 第5回 | 行動経済学の基礎知識(2) |
| 第6回 | 行動経済学の基礎知識(3) |
| 第7回 | ナッジとは |
| 第8回 | 日常に溶け込む行動経済学 |
| 第9回 | 仕事に溶け込む行動経済学 |
| 第10回 | 研究事例：働き方 |
| 第11回 | 研究事例：仕事 |
| 第12回 | 研究事例：医療・健康 |

| | |
|------|-----------------|
| 第13回 | 研究事例：日本での公共政策活用 |
| 第14回 | 研究事例：海外での公共政策活用 |
| 第15回 | これまでのポイントのまとめ |

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

| | |
|------|-----|
| 試験 | |
| レポート | 60% |
| その他 | 40% |

| | |
|---------------|---|
| 成績評価の方法（コメント） | レポート60%とは：事前に発表した課題についてレポートを提出してもらいます。 その他40%とは：講義中にアンケートやリアクションペーパーを求めることがあります。 |
|---------------|---|

テキスト

| | 著者 | タイトル | 教科書購入区分 | ISBN | 出版社 | 備考 |
|----|----|------|---------|------|-----|---------------|
| 1. | | | | | | 授業内でレジュメを配布予定 |

| | |
|--------------|--|
| 参考文献 | 大竹文雄、「行動経済学の使い方」、岩波書店 経済協力開発機構(著、編集)、「世界の行動インサイト——公共ナッジが導く政策実践」、明石書店 |
| 事前および事後学習の指示 | 事前学習として30時間（2h x 15回）、事後学習として30時間（2h x 15回）を求めます。 具体的には授業後に次回のテーマを発表しますので、各自予習してください。 また授業終了後には、講義のポイントを復習するようにしてください。 |
| 学習時間 | 事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間 |
| キーワード | 行動経済学、認知科学、ミクロ経済学 |

| | |
|-------------|------------------------|
| 講義コード | 1530430000 |
| 講義名称 | モダニティの社会学 <春> |
| 科目英文名 | Sociology of Modernity |
| 開講責任部署 | 社会学部 社会学科 |
| 代表ナンバリングコード | 0S0C2460 |
| 単位数 | 2.0 |
| 時間割 | 春学期: 木曜日 4 時限 |
| 講義開講時期 | 春学期 |

担当教員

| |
|-------|
| 氏名 |
| 名部 圭一 |

| | |
|------|----|
| 授業形態 | 講義 |
|------|----|

| | | |
|---------------|------------------------------|------------|
| アクティブラーニングの詳細 | ※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 | |
| | コメントシート | 小レポート/小テスト |

| | |
|----------|--|
| 講義・演習概要 | モダニティ（modernity）とは「近代」のことである。およそ18世紀半ばのヨーロッパに起源をもつ近代社会はこの数十年で大きく変容し、この新しい近代を社会学者は「後期近代（late modernity）」と呼んでいる。この講義では、この後期近代の特質を前期近代（early modernity）と対比しながら明らかにする。前半では、主に再帰的近代化論に依拠しながら、前期近代から後期近代への移行過程で生じた人々の意識、ライフスタイル、ライフコース、人間関係、社会制度の変容を捉える。後半では、メディア論的観点から、新聞、出版、ラジオ、テレビといったマスメディアがモダニティの形成に対していかなる影響があったのか、さらには近年のインターネットと携帯電話の急速な発展と普及がモダニティをどのように変えつつあるのか、という問題について考察する。 |
| 学習（到達）目標 | 前期近代から後期近代へと移行することによりどのような社会変化が生じたのか、そしてこうした変化にともなう個人にとってのプラスとマイナスの側面はそれぞれ何なのかを理解すること。 |

講義・演習計画

| 回 | 内容 |
|------|-----------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 伝統社会から近代社会へ／前期近代から後期近代へ |
| 第3回 | 再帰的近代化 |
| 第4回 | リスク社会 |
| 第5回 | 再帰的プロジェクトとライフ・ポリティクス |
| 第6回 | 愛の変容：ロマンチック・ラブからコンフルエント・ラブへ |
| 第7回 | やさしい人間関係と「空気」という規範 |
| 第8回 | 「若者」の消滅 |
| 第9回 | 想像の共同体とマスメディア |
| 第10回 | 疑似環境と暴走する世論（せろん） |
| 第11回 | 疑似イベントからハイパーリアリティへ |
| 第12回 | 電子メディアと〈子供〉の消失 |
| 第13回 | 音楽消費のメディア学：物質化と脱物質化の相克 |
| 第14回 | ウェブとマスメディア |
| 第15回 | まとめ |

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

| | |
|------|-----|
| 試験 | |
| レポート | 70% |
| その他 | 30% |

| | |
|---------------|--|
| 成績評価の方法（コメント） | 期末レポート：70% 課題レポート：30% ※レポートはいずれもM-Portで提出 ・課題レポートにはテーマに即した自身の考えを書いてもらう。なお、課題レポートの点数は出席点ではない。提出されたレポートが無内容もしくは不適切と判断した場合、得点を与えないので、しっかりと考え内容のあるレポートを出すこと（無内容なものを提出するぐらいなら、出さない方がまし）。 ・期末レポートは大きめのテーマを与え、1500～2000字で書いてもらう。成績評価は厳しめ。いわゆる「楽単」や「カモ」ではないので、覚悟して履修するように。 |
|---------------|--|

| | |
|--------------|--|
| 参考文献 | 浜日出夫『戦後日本社会論』有斐閣 大村英昭・宮原浩二郎・名部圭一『社会文化理論ガイドブック』ナカニシヤ出版 小川伸彦・山泰幸（編）『現代文化の社会学入門』ミネルヴァ書房 辻泉・南田勝也・土橋臣吾『メディア社会論』有斐閣 南出和余・木島由晶（編）『メディアの内と外を読み解く』せりか書房 佐藤卓己『メディア論の名著30』筑摩書房（ちくま新書） |
| 事前および事後学習の指示 | 日本の元号を用いて言い換えれば、前期近代は「戦後昭和」に、後期近代は「平成」「令和」に対応する。2019年に平成が終わったことで、テレビ、新聞、出版などで数々の平成特集が組まれた。そうした番組、記事、出版物に積極的に接することで、自らが（生まれる前の時代を含む）生きてきた時代とは、どのような時代なのかについて、ある程度の知識とイメージを持つておくこと。また日ごろから、情報をインターネットだけでなく、テレビ、新聞、雑誌といった複数のメディアを通して知るように心がけてほしい。 |
| 学習時間 | 事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間 |
| キーワード | モダニティ ソリッド・モダニティ リキッド・モダニティ 前期近代 後期近代 再帰性 再帰的近代化 リスク社会 個人化 ロマンチック・ラブ コンフルエント・ラブ 想像の共同体 輿論（よろん） 世論（せろん） 疑似環境 疑似イベント シミュラクル メディアはメッセージ データベース型音楽消費 沈黙の螺旋理論 サイバースケード アジェンダセッティング ポスト真実 |

| | |
|-------------|-------------------------|
| 講義コード | 1677210000 |
| 講義名称 | 国際会計論 [2] <春> |
| 科目英文名 | Internatinal Accounting |
| 開講責任部署 | 経営学部 経営学科 |
| 代表ナンバリングコード | ACCT3470 |
| 単位数 | 2.0 |
| 時間割 | 春学期: 木曜日 4 時限 |
| 講義開講時期 | 春学期 |

担当教員

| |
|-------|
| 氏名 |
| 中村 恒彦 |

| | | |
|------|----|------------|
| 授業形態 | 講義 | アクティブラーニング |
|------|----|------------|

| | |
|---------------|--|
| アクティブラーニングの詳細 | ※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 宿題(演習問題、e-learning等) |
|---------------|--|

| | |
|----------|--|
| 講義・演習概要 | 「会計のルールを作っているのは?」 国際会計論では、IFRS(国際財務報告基準)会計の学習を通じて現代の会計理論を学習します。学習内容が高度であるため、ひとつひとつの理論をゆっくりと学習していく予定にしています。最初は、外貨換算会計や表示様式に限られていた分野でしたが、国際会計は1990年代からの経済社会のグローバル化にともなって一躍大きな分野になりました。本講義では、会計の技術的側面だけでなく、国際的なルール競争が何をもたらしたかも学習します。 |
| 学習(到達)目標 | この講義を通じて、論理的な考え方がどういうものかについて理解が深まればよいと思います。論理的な考え方に固執することはいけませんが、自分の視野を広げるためにも論理的な考え方が必要となります。会計学者や会計士や企業の財務担当者が考える論理の世界について体感していただければよいと思います。 |

講義・演習計画

| 回 | 内容 |
|------|------------------------------------|
| 第1回 | 国際会計の世界 ～国際化と外貨換算～ |
| 第2回 | IFRSをめぐる背景 |
| 第3回 | 国際化の進展 |
| 第4回 | IFRSの特徴と概念フレームワーク(1) ～演繹法と帰納法～ |
| 第5回 | 概念フレームワーク(2) ～会計の枠組み～ |
| 第6回 | 金融商品会計 ～時価主義と原価主義～ |
| 第7回 | 利益計算のシステム(1) ～純利益と包括利益～ |
| 第8回 | 利益計算のシステム(2) ～資産負債アプローチと収益費用アプローチ～ |
| 第9回 | 中間ふりかえりと課題点検 |
| 第10回 | リース会計 ～実質優先主義と法的形式主義について～ |
| 第11回 | 連結会計 ～経済的単一概念と親会社概念について |
| 第12回 | 企業結合の会計 ～パーチェス法と持分プーリング法～ |
| 第13回 | 収益認識の会計 ～出荷基準と着荷基準～ |
| 第14回 | 国際会計の歴史 ～生成から台頭まで～ |
| 第15回 | 最終ふりかえりと課題総点検 |

成績評価の方法(割合)

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

| | |
|------|-----|
| 試験 | 80% |
| レポート | 0% |
| その他 | 20% |

| | |
|---------------|--|
| 成績評価の方法（コメント） | <ul style="list-style-type: none">・成績評価は、原則的に期末試験と平常評価によって行います。なお、平常評価は「出席」では行わず、講義中の「課題」や「宿題」によって評価を行います。・期末試験(80点)+宿題・課題等(20点程度) 講義を欠席することのフォローは一切行いません。詳しい評価方法については、初回の講義で説明します。 |
|---------------|--|

テキスト

| | 著者 | タイトル | 教科書購入区分 | ISBN | 出版社 | 備考 |
|----|-------|----------------|-----------|-------------------|-------|----|
| 1. | 行待 三輪 | はじめて学ぶ国際会計論 | 大学オンライン販売 | 978-4-7944-1528-8 | 創成社 | |
| 2. | 向 伊知郎 | ベーシック国際会計(第二版) | 学生独自購入 | 978-4-502-30521-4 | 中央経済社 | |

| | |
|--------------|---|
| 事前および事後学習の指示 | 財務諸表論や簿記関連科目や監査論と重複する部分が多いので、関連科目を履修することを勧める。 |
| 学習時間 | 事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間 |
| キーワード | IAS/IFRS・コンバージェンス・財務会計 |

| | |
|-------------|-------------------------------|
| 講義コード | 14D2010000 |
| 講義名称 | 経済学Ⅰ [2] <春> |
| 科目英文名 | History of Economic Thought Ⅰ |
| 開講責任部署 | 経済学部 経済学科 |
| 代表ナンバリングコード | ECON1450 |
| 単位数 | 2.0 |
| 時間割 | 春学期: 木曜日 4 時限 |
| 講義開講時期 | 春学期 |

担当教員

| |
|-------|
| 氏名 |
| 北田 了介 |

| | |
|------|----|
| 授業形態 | 講義 |
|------|----|

| | | |
|---------------|------------------------------|------------|
| アクティブラーニングの詳細 | ※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 | |
| | コメントシート | 小レポート/小テスト |

| | |
|----------|---|
| 講義・演習概要 | 授業は講義形式でおこない、毎回終了前に出席確認を行う。 本講義は、17世紀以降の経済学説（重商主義、古典派経済学、マルクスの経済学、近代経済学）とその時代背景ををたどることで、現在の経済理論や経済問題を相対化するための視点を手に入れることを目指す。 |
| 学習（到達）目標 | 経済学説の歴史をとおして「経済」の基本的な考え方を学ぶと同時に、社会がいかなる知の形式から成立しているかをさぐっていく。 |

講義・演習計画

| 回 | 内容 |
|------|---|
| 第1回 | イントロダクション 経済学および経済学史を学ぶことの意義 |
| 第2回 | 重商主義（1） アジア貿易とヨーロッパの「重商主義」 |
| 第3回 | 重商主義（2） 重商主義の政策論争 |
| 第4回 | ジョン・ロックの経済思想（1） 17世紀のイングランドと二つの革命 |
| 第5回 | ジョン・ロックの経済思想（2） 社会の構成と私的所有権 |
| 第6回 | 17世紀イングランドの利子率引き下げ論争 |
| 第7回 | ヒュームの経済思想（1） 経済発展論とインダストリ |
| 第8回 | ヒュームの経済思想（2） 貨幣・貿易論 |
| 第9回 | スチュアートの経済思想（1） 人口論と「近代社会」 |
| 第10回 | スチュアートの経済思想（2） 貨幣・価格論 |
| 第11回 | ケネーの経済思想（1） 17-18世紀のフランスとフィジオクラシー（重農主義）の原理 |
| 第12回 | ケネーの経済思想（2） 「経済表」で示される流通過程と剰余生産 |

| | |
|------|-----------------------------------|
| 第13回 | 重商主義・重農主義からアダム・スミスへ 限界とその後への影響 |
| 第14回 | アダム・スミス思想の概略的説明 道徳哲学から経済学へ |
| 第15回 | 春学期のまとめ |

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

| | |
|------|------|
| 試験 | 0% |
| レポート | 100% |
| その他 | |

| | |
|---------------|---|
| 成績評価の方法（コメント） | 授業ごとに提出してもらったレポート、および授業内で提出していただくコメントペーパー内容によって評価を行います（第1回目2点、それ以降の14回は各7点満点で採点）。 |
|---------------|---|

テキスト

| | 著者 | タイトル | 教科書購入区分 | ISBN | 出版社 | 備考 |
|----|----------|------------|---------------|-------------------|-----|----|
| 1. | 北田了介（編著） | 教養としての経済思想 | 大学オンライン 販売 | 978-4-86065-119-0 | 萌書房 | |

| | |
|--------------|--|
| 参考文献 | 講義時間内で随時紹介する。 |
| 事前および事後学習の指示 | 講義に際しては事前学習および事後学習が必要である。事前学習（授業ごとに2時間）では教科書を熟読するとともに、授業内で指示された参考文献に目を通しておくこと。事後学習（授業ごとに2時間）では教科書内に示されている章末問題について、正確な解答を作成することが望まれる。 |
| 学習時間 | 事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間 |

| | |
|-------------|---------------------------|
| 講義コード | 14D2710000 |
| 講義名称 | 日本近代史Ⅰ <春> |
| 科目英文名 | History of Modern Japan Ⅰ |
| 開講責任部署 | 経済学部 経済学科 |
| 代表ナンバリングコード | HIST1400 |
| 単位数 | 2.0 |
| 時間割 | 春学期: 木曜日 4 時限 |
| 講義開講時期 | 春学期 |

担当教員

| |
|-------|
| 氏名 |
| 島田 克彦 |

| | |
|------|----|
| 授業形態 | 講義 |
|------|----|

| | |
|---------------|---|
| アクティブラーニングの詳細 | ※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート |
|---------------|---|

| | |
|----------|---|
| 講義・演習概要 | <p>「東アジアの中の近代日本」というテーマの下、幕末・維新时期から日露戦争後に至る時期の歴史について講義を行います。</p> <p>19世紀、発達した資本主義国である欧米列強は、アフリカ・アジアを植民地として分割し、さらに東アジアに迫ってきます。このような国際情勢の中、武力で江戸幕府を倒して成立した明治政府は、急速な近代化を推し進めていくことになります。</p> <p>このような近代国家の構築過程は、日本社会や、周辺地域との関係をどのように特徴づけ、どのような矛盾を生み出していったのでしょうか。授業では、明治期の日本が東アジアの植民地帝国となっていく過程を、①東アジアの中の日本、②大阪をはじめとする地域、という2つの視点から学んでいきます。</p> |
| 学習（到達）目標 | 東アジアにおける植民地帝国・日本の構築過程で形成される、日本社会や、近隣諸地域との関係の特質を理解すること。 |

講義・演習計画

| 回 | 内容 |
|------|---|
| 第1回 | 東アジアの中の近代日本 ―開講にあたって― 第1回目に授業の進め方、課題、評価の方法等について説明をするので、必ず出席すること。 |
| 第2回 | 東アジアの伝統的国際秩序 |
| 第3回 | 開国と幕末・維新期の社会 |
| 第4回 | 明治政府の外交路線と国際関係 ―対ヨーロッパ外交・対東アジア外交― |
| 第5回 | 明治政府と国家・国民 ―アイヌ・沖縄にとっての近代― |
| 第6回 | 大村益次郎の兵制構想と徴兵規則 |
| 第7回 | 軍隊の創設と徴兵令 |
| 第8回 | 近代日本の国家体制 ―地方制度と学校教育― |
| 第9回 | 近代日本の国家体制 ―大日本帝国憲法― |
| 第10回 | 近代工業都市大阪の成立と社会変動 |
| 第11回 | 日清戦争後の社会 |
| 第12回 | 日露戦争と国民 |
| 第13回 | 日露戦争後の社会 |
| 第14回 | アジアにおける植民地帝国・日本 |
| 第15回 | 全体のまとめ |

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

| | |
|------|-----|
| 試験 | 0% |
| レポート | 55% |
| その他 | 45% |

| | |
|---------------|--|
| 成績評価の方法（コメント） | 成績評価の配分は、毎回の確認・まとめ課題45%、レポート（2回を予定）55%。 毎回の確認・まとめ課題は、授業への出席とセットで評価します。 レポートは2回とも提出すること。1回の提出がなければ単位を認めません。 |
|---------------|--|

テキスト

| | 著者 | タイトル | 教科書購入区分 | ISBN | 出版社 | 備考 |
|----|----|------|---------|------|-----|----------------------------|
| 1. | | | | | | 使用しない。講義ごとにレジュメと参考資料を配布する。 |

| | |
|--------------|---|
| 参考文献 | ※講義の中で適宜紹介します。 山口啓二『鎖国と開国』岩波書店、1993年 中塚明『近代日本と朝鮮』三省堂、1994年 石井寛治『日本の産業革命』朝日新聞社、1997年 加藤陽子『戦争の日本近現代史』講談社、2002年 原田敬一『戦争の日本史19 日清戦争』吉川弘文館、2008年 山田朗『戦争の日本史20 世界史の中の日露戦争』吉川弘文館、2009年 趙景達『近代朝鮮と日本』岩波書店、2012年 宮地正人『幕末維新変革史』上・下、岩波書店、2012年 中塚明・井上勝生・朴孟洙『東学農民戦争と日本』高文研、2013年 奥田春樹『維新と開化』吉川弘文館、2016年 飯塚一幸『日清・日露戦争と帝国日本』吉川弘文館、2016年 大日方純夫『「主権国家」成立の内と外』吉川弘文館、2016年 |
| 事前および事後学習の指示 | 各自作成する講義ノートと、配布される講義レジュメにしたがって復習すること。 |
| 学習時間 | 事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間 |

| | |
|-------------|---------------------------|
| 講義コード | 16D0130000 |
| 講義名称 | コーポレート・ファイナンス（基礎） <春> |
| 科目英文名 | Corporate Finance (basic) |
| 開講責任部署 | 経営学部 経営学科 |
| 代表ナンバリングコード | BUSA2460 |
| 単位数 | 2.0 |
| 時間割 | 春学期: 木曜日 4 時限 |
| 講義開講時期 | 春学期 |

担当教員

| |
|-------|
| 氏名 |
| 齋藤 巡友 |

| | |
|------|----|
| 授業形態 | 講義 |
|------|----|

| | | |
|---------------|--|----------------------|
| アクティブラーニングの詳細 | ※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト | 宿題(演習問題、e-learning等) |
|---------------|--|----------------------|

| | |
|----------|---|
| 講義・演習概要 | 企業を経営していく上で戦略の策定は非常に重要な意思決定となる。企業経営における戦略とは、企業経営に必要な不可欠な資源である「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」の適切な用途および配分を決定することである。コーポレート・ファイナンスでは、特に「カネ」すなわち資金面の戦略に焦点を当てる。具体的には企業経営に係わる資金の流れを3つの段階に分けて考えることになる。1つ目は、「どのように資金を集めるのか」という資金調達段階である。2つ目は、「集めた資金をどのように投資するのか」という投資段階である。3つ目は、「投資によって得られた利益をどのように処分するのか」という利益処分（利益還元）の段階である。本講義では、これらの財務的意思決定における問題を理解するためのベースの部分となる概念や理論について学ぶ。 |
| 学習（到達）目標 | コーポレート・ファイナンスに関する諸問題を理解するために必要な知識・概念や理論を習得することに加え、企業を「カネ」の側面から理解するためのフレームワークの習熟が本講義の学習目標となる。 |

講義・演習計画

| 回 | 内容 |
|------|-------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション：授業内容や授業方針、成績評価について |
| 第2回 | 財務活動と財務管理 |
| 第3回 | 財務諸表1：財務諸表とは |
| 第4回 | 財務諸表2：貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書 |
| 第5回 | 財務諸表3：財務指標からわかる企業の特徴 |
| 第6回 | 資金の時間的価値 |
| 第7回 | 現在価値の公式と株式・債券の価格評価 |
| 第8回 | 企業価値の評価指標 |
| 第9回 | リスクとリターン |
| 第10回 | ポートフォリオ理論1：分散投資の効果 |
| 第11回 | ポートフォリオ理論2：平均・分散アプローチ |
| 第12回 | 資産価格の決定理論 |
| 第13回 | 資本コストの概念1：資本コストとは |
| 第14回 | 資本コストの概念2：資本コストの推計 |
| 第15回 | 試験およびまとめ |

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

| | |
|------|-----|
| 試験 | 70% |
| レポート | |
| その他 | 30% |

| | |
|-------------------|---|
| 成績評価の方法 (コメント) | ①到達目標に対応する試験を期末に実施する。試験では、基礎的な知識や概念の理解度とそれらをどの程度応用できるかを確認するための問題を出題する。問題は短答式・記述式（計算問題を含む）を組み合わせ形式となる。成績評価における点数配分は70% ②授業の理解度を問う小課題を複数回実施する。成績評価における点数配分は30% |
|-------------------|---|

| | |
|----------------------|---|
| 参考文献 | 砂川伸幸著『コーポレートファイナンス入門（第2版）』日本経済新聞社 高橋文郎・井出正介著『経営財務入門 第4版』日本経済新聞出版社 米澤康博・小西大・芹田敏夫著『新しい企業金融』有斐閣アルマ リチャード＝ブリーリー・スチュワート＝マイヤーズ・フランクリン＝アレン著『コーポレートファイナンス 第10版 上』日経BP社 ジョナサン＝パーク・ピーター＝ディマーズ著『コーポレートファイナンス入門編第2版』丸善出版株式会社 砂川伸幸・川北英隆・杉浦秀徳著『日本企業のコーポレートファイナンス』日本経済新聞出版社 砂川伸幸・川北英隆・杉浦秀徳・佐藤淑子著『経営戦略とコーポレートファイナンス』日本経済新聞出版社 朝岡大輔・砂川伸幸・岡田紀子著『ゼミナール コーポレートファイナンス』日本経済新聞出版社 |
| 事前および 事後学習の 指示 | 講義前に講義資料をアップロードするので、事前学習として講義資料を読み、疑問点を整理しておくこと。復習の際は、理解出来なかった点を講義後やオフィスアワーに質問する、または参考文献の該当箇所を確認するなどして疑問点を残さないようにすること。 本講義ではコーポレート・ファイナンスに関する応用的な内容を理解するために必要となる基礎概念や基礎理論を学ぶ。位置付けとしては「基礎」となっているが、理論的な部分を解説することが多く、トピックによっては初学者には難しく感じる部分も出てくると思うので、特に復習に重点をおいて取り組んでもらいたい。 この講義で扱うトピックの中には基礎的な数学知識を前提とするものもあるため、高校で習った数学（特に確率）を復習しておくことを強く推奨する。 |
| 学習時間 | 事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間 |
| キーワード | 企業価値、財務諸表、現在価値、リスクとリターン、ポートフォリオ、資本コスト |

| | |
|-------------|--------------------------|
| 講義コード | 1N06060000 |
| 講義名称 | 西洋法制史A <春> |
| 科目英文名 | European Legal History A |
| 開講責任部署 | 法学部 法律学科 |
| 代表ナンバリングコード | 0LAW2600 |
| 単位数 | 2.0 |
| 時間割 | 春学期: 木曜日 4 時限 |
| 講義開講時期 | 春学期 |

担当教員

| |
|-------|
| 氏名 |
| 鈴木 康文 |

| | |
|------|----|
| 授業形態 | 講義 |
|------|----|

| | |
|---------------|--|
| アクティブラーニングの詳細 | ※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト |
|---------------|--|

| | |
|----------|--|
| 講義・演習概要 | 古代から中世までのヨーロッパにおける法と法学の歴史を概観します。 できるだけ史料（邦訳）を紹介し、読み解いていきます。 |
| 学習（到達）目標 | ①各時代の政治・社会の状況を理解する。 ②（①を前提に）各時代の法と法学のあり方を学び理解する、史料を読み解きその歴史的意味を理解する。 ③過去との比較を通じて現代の法のあり方を考察する。 |

講義・演習計画

| 回 | 内容 |
|------|------------------------------|
| 第1回 | ガイダンスおよび【古代】ローマ共和政期 ※テキスト第1講 |
| 第2回 | 【古代】ローマ帝政期 ※テキスト第2講 |
| 第3回 | 【古代】民事訴訟 ※テキスト第3講 |
| 第4回 | 【古代】契約 ※テキスト第4講 |
| 第5回 | 【古代】法学 ※テキスト第5講 |
| 第6回 | 古代の復習と補足 |
| 第7回 | 試験と解説（1回目） |
| 第8回 | 【中世】中世法学のはじまり ※テキスト第6講 |
| 第9回 | 【中世】中世法学の展開 ※テキスト第7講 |
| 第10回 | 【中世】法学部の登場と発展 ※テキスト第8講 |
| 第11回 | 【中世】訴訟手続と裁判機構 ※テキスト第9講 |
| 第12回 | 【中世】法学者と法学の広がり ※テキスト第10講 |
| 第13回 | 中世の復習と補足 |
| 第14回 | 試験と解説（2回目） |
| 第15回 | 全体のまとめ |

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

| | |
|----|------|
| 試験 | 100% |
|----|------|

| | |
|------|----|
| レポート | 0% |
| その他 | 0% |

| | |
|---------------|---|
| 成績評価の方法（コメント） | 論述試験（2回）と小テストの点数により成績を評価します。 ※論述試験と小テストの詳細（割合、実施方法など）を含め、成績評価については第1回ガイダンスで説明します。必ず出席してください。 |
|---------------|---|

テキスト

| | 著者 | タイトル | 教科書購入区分 | ISBN | 出版社 | 備考 |
|----|-----------------------|------------|---------------|----------------|-------|-------|
| 1. | 宮坂渉・松本和洋・ 出雲孝・鈴木康文 | 史料からみる西洋法史 | 大学オンライン 販売 | 978-4589043399 | 法律文化社 | 2024年 |

| | |
|--------------|---|
| 事前および事後学習の指示 | 事前学習：教科書・授業資料をよく読んでおいてください。 事後学習：教科書・授業資料を使って復習してください。 |
| 学習時間 | 事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間 |